

群 教 七	G02 - 05
	平25.251集
	高・地歴

# 高校日本史における 歴史的思考力を高める指導の工夫

— 歴史上の人物に「一言」伝える活動を通して —

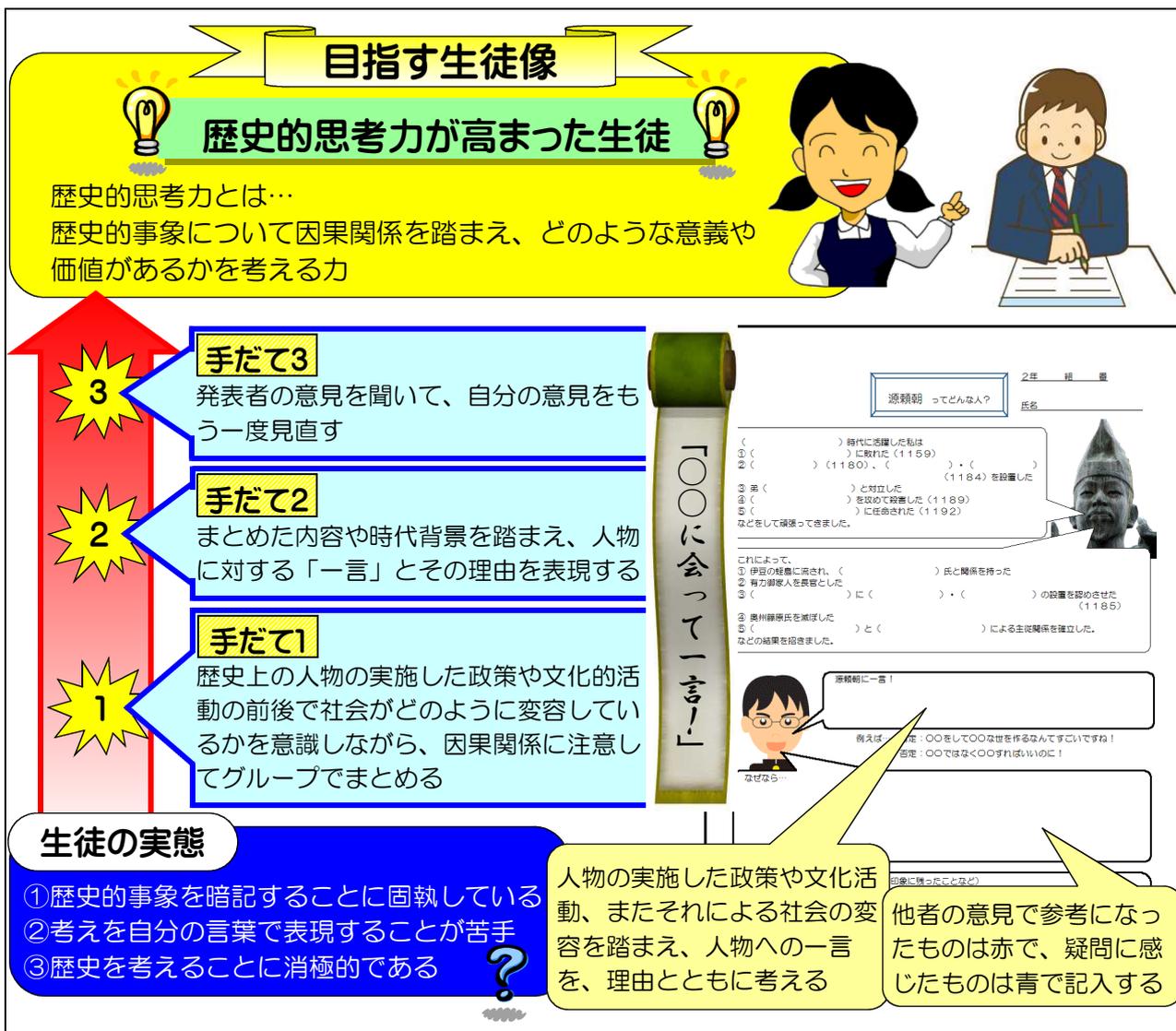
特別研修員 井田 昌樹

## I 主題設定の理由

県の教育行政方針の中に「自ら学び、考え、判断できる能力を育成する」とある。私はこれを一方的な講義や抽象的な説明等に終始することなく、授業の中で生徒にいかにか思考させ、判断させ、表現させるかといった言語活動や体験活動などを充実させることに重点を置いて指導するということが重要であると捉えた。一方、本校生徒は自分の考えを自分の言葉で表現することが得意でなかったり、歴史的な事象を暗記することで満足してしまったりと、歴史的な事象の意義を考えることに消極的な者が少なくない。そこで、本校生徒の実態を踏まえて、歴史上の人物の言動と歴史に与えた影響を根拠に、人物に会ったと想定して「一言」伝える活動を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手だて

単元「中世社会の成立」(第2学年・2学期)において、歴史上の人物を数名挙げ、生徒に一人選ばせる。その人物に会って「一言」伝えるという設定で、その人物の言動と歴史に与えた影響を多面的に調べ、「一言」を考えさせる。相互に「一言」の発表を聞き合うことで、多面的な見方・考え方を学び合う。そこで、以下の点に留意して実践1～3を試みた。(本報告書では実践1は省略)

### — 実践2における研究上の手だて —

- ①歴史上の人物の政策・文化的活動やそれによる結果をワークシートにまとめる。
- ②同一人物を選択した生徒同士でグループを構成し、協力してワークシートの空欄を埋める。
- ③「一言」を理由とともに考え、まとめる。
- ④代表者が発表し、聞き手は自分にはない考えを書き加える。

歴史上の人物の政策や文化的活動、それによる結果など歴史的事象を踏まえて、因果関係を意識しながら、自分の言葉で「一言」と理由を考え、まとめられるようになった。すなわち、歴史的思考力が高まり、ねらいの「実施された政策・文化的活動やその結果から、自分の考えをまとめ、表現できるようにする」は達成できた。しかし、グループでワークシートの空欄補充をする際、個別作業になってしまった生徒が多く、グループを形成する意味があまりなかった。また、自分にはない、よりよい他者の意見を取り入れて、「一言」を修正する活動もあまり行われなかった。つまり、学び合い活動が十分でなかった。

そこで、単元「中世社会の成長」(第2学年・3学期)では、次のように手だてを改善した。

### — 実践3における研究上の手だて —

- ①個人で考えた「一言」を同一人物を選択した生徒同士で発表し合い、グループで一つの意見にまとめる。
- ②自分にはない参考となる意見や新たな気づきの言葉を自分のワークシートに記入する。
- ③他者の意見のよい部分を取り入れ、グループとして1つの意見としてまとめる。

すると、他者の発表を聞き、よい部分や参考になる部分を取り入れる姿勢が顕著に見られるようになった。また、役割を決め、グループで意見をまとめさせたことにより、スムーズな学び合い活動となった。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 政策や文化的活動とその結果から因果関係を意識し、歴史的事象にどのような意義や価値があるかを考えながら、自分の意見をまとめることができるようになった。
- 自分の言葉で表現することに抵抗なく取り組むことができるようになった。
- 他者の意見を取り入れ、考えを修正する力を身に付けることができた。

### 2 課題

- 作業時間を十分とらず、発表時間が少なくなってしまった。
- 歴史的事象を踏まえての「一言」と理由を記入できる生徒は増えてきたが、時代背景まで捉えて文章化できる生徒がまだ少ない。
- まとめる作業にほとんど参加していない生徒がいた。
- 自分の意見をまとめることに専念し、他者の意見を傾聴できない生徒がいた。

### 3 歴史的思考力を高めるための学び合い活動の改善に向けて

- 他者の意見を聞き、取り入れる部分を取捨選択し、個人の考えを深められる力をより一層伸ばすには、学び合い活動をより活発なものにする必要があると考える。

## IV 実践及び改善の実際

### 実践 2

#### 1 単元名 「中世社会の成立」

#### 2 本単元及び本時について

本単元は、武士の登場から武士の台頭、武家政権の成立と鎌倉時代における武家社会のその後の展開を扱っている。これまで学習してきた平安時代の摂関政治の中から武士が登場する土壌が形成され、その武士の活躍により古代の天皇や貴族を中心とした政治体制が崩壊し、武士を中心とした中世社会に移行するという歴史的に非常に大きな転換期となる単元である。また、農業をはじめとして諸産業が発達し、民衆の成長とともに武士や民衆が中心となる活力ある文化が展開されていったことを理解する上でも最適な単元であると考え。これを踏まえ、本単元では、当時諸問題に直面していた人々の願いや思いについて、複数の歴史上の人物を取り上げ、様々な立場から考察する。さらに当時の時代状況と政策等を現代の問題として考えを練り上げていく活動を通して、他者の立場にも目を向けながら、生徒自らが社会にかかわろうとする意識を高められると考える。このことは、異なる立場を踏まえ、協働してよりよい社会を築いていこうとする生徒を育てる上で意義があると考え。

#### 3 授業の実際

- (1) 導入…「2020年東京オリンピック開催決定の瞬間」の動画を示した。そして「東京オリンピック開催決定で、今後の日本社会はどのように変化するか」と問い、「景気が良くなる」「幸せになる」「福島の復興が後回しにされる」など多面的多角的な視点で捉えさせられた。

そうした視点を教員が改めて示すことで、一つの政策がその後の社会に様々な影響を及ぼすことを確認した。

→これを踏まえ、本時は歴史上の人物の業績やそれによる結果をまとめ、その人物に伝える「一言」とその理由を考えることを確認した。

- (2) 展開 1…人物の実施した政策や文化的活動の前後で社会がどのように変容しているかを意識しながら、因果関係に注意してグループでまとめる。(手だて 1)

##### 【留意点】

- ・歴史上の人物は為政者だけでなく、文化面で活躍をした人物や女性など様々な立場の人物を教員が選出した。具体的には「平清盛」「源頼朝」「北条政子」「北条泰時」「鴨長明」「運慶」の6名とし、授業前に行った調査を基に、生徒の希望する人物のワークシートを配付した。
- ・同一人物を選択した生徒同士でグループを作り、空欄補充を共同作業とした。
- ・教科書や資料集、または必要に応じて教員が準備した補助資料を使用させたり、作業の遅い生徒を援助させたりすることで、作業時間の短縮を図った。

- (3) 展開 2…まとめた内容や時代背景を踏まえ、人物に対する「一言」と理由を表現する。(手だて 2)

個人で考え、意見をまとめさせた。

図料 1 に見られるように、肯定的、否定的の立場を問わず、歴史的事象を踏まえ、意見をまとめられた生徒が多く見られた。

##### 【留意点】

- ・一言でまとめるのが困難な生徒のために、肯定的、否定的な「一言」を書くための定型文を示した。
- ・理由も一つに絞り、史実に基づいたものを考えさせた。

## 資料1 生徒の回答例

平清盛に一言！「日宋貿易を活発にするなんてすごいですね」

[理由]「それにより宋銭の流入を促進し、それが江戸時代まで使用され、貨幣経済の発達を促したから」

北条政子に一言！「幕府と息子を天秤にかけるのはどうかと思う」

[理由]「いくら大事な幕府のためとはいえ、自分の息子の出来が良くないからといって親裁を止めたり、廃位させるのは少しやりすぎではないかと思う。ここで判断を変えれば3代将軍が殺されることはなかったのではないかとも思ったから」

北条泰時に一言！「御成敗式目を制定したことは正解だと思います」

[理由]「この武家成文法は、御家人同士や荘園領主との紛争を公平に裁くという規程が明らかになった整った法典だから」

### (4) 展開3…発表者の意見を聞いて、自分の意見をもう一度見直す。(手だて3)

各歴史上の人物につき代表生徒を一人ずつ選出し、発表させた。

発表者の意見を聞き、自分にない考えで参考になったものを赤で、疑問に思ったことを青で書き込ませた。

#### 【留意点】

- ・机間指導しながら、教員が代表生徒を選出しておく。
- ・声の小さい生徒にはマイクを使用し、発表内容が聞き手に伝わるように配慮する。
- ・発表者のワークシートを実物投影機で映し、発表内容の理解を深めるよう工夫する。(図1)

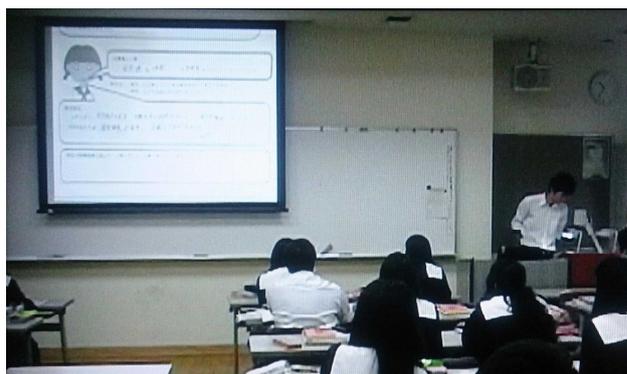


図1 実物投影機を使い発表する様子

## 4 考察

### (1) 成果

- 歴史的事象の因果関係を踏まえて、また自分の言葉を駆使して「一言」と理由を表現できる生徒が増加した。
- いくつかのグループで、個々の作業後、各自の意見を照らし合わせ、効率的に空欄補充を完成させる場面が見られた。

### (2) 課題

- 時代背景を含めて意見をまとめられる生徒が少ない。
- 個人作業に徹してしまい、グループ活動をしないう生徒が多く見られた。

### (3) 改善策

- 時代背景を踏まえた意見をまとめるなど、個人での思考・判断・表現活動を充実させるために、より高い規程を示したり、声かけをしていく。
- 学び合い活動を充実させるために、人物への「一言」と理由を考える場面から始め、個人でまとめた意見を持ち寄り、グループ内で発表させる。自分にない考えや参考となる部分があったら、修正したり書き加える作業を取り入れる。その後、グループで意見を一つにまとめて、ワークシートを完成させ、代表者に発表させる。

### 実践3

#### 1 単元名 「中世社会の成長」

#### 2 本単元及び本時について

本単元では、鎌倉幕府の衰えを見てとった後醍醐天皇が幕府を倒し、建武の新政を始めるが、武士政治の大きな歴史の流れを変えることができず、足利氏により室町幕府が開かれた時代を扱う。南北朝の動乱期に守護の力が強まり幕府を支える基盤となった。室町幕府は守護大名による連合政権としての性格をもったが、応仁の乱後幕府の統治力は衰退し戦国大名の台頭を見た。また、この時代は鎌倉時代の農業・商業の発展を土台にますます産業が発展し、民衆の暮らしに影響を与えた。農村や都市では自治的な組織ができ、現代の生活に深く関係する部分が生まれてきたことにも着目させていく。さらに、文化面でも今日につながる日本的な文化が興ってくる。

このように本単元は、様々な立場の人物・集団が登場し、かかわる場面が多く見られる。そこで、生徒が知識をもっている人物・事柄を押さえながら、グループによる意見交流などの活動を取り入れた学び合いの場面を設定し、歴史的事象を多面的・多角的に考察し、関連させながら時代の特色を理解させるのに適した単元であると考えられる。

#### 3 授業の実際

- (1) 展開1…歴史上の人物の実施した政策や文化的活動の前後で社会がどのように変容しているかなど因果関係や時代背景を踏まえ、人物に対する「一言」とその理由を表現する。(手だて2)

既に学習した内容を確認しながら「一言」と理由を考える場面から始めた。

資料2に見られるように、歴史的事象の因果関係だけでなく、時代背景を含めて意見をまとめられる生徒が増加した。

##### 【留意点】

- ・歴史上の人物は教員が選出した「後醍醐天皇」「足利義満」「足利義政」「日野富子」「世阿弥」「雪舟」の6名とし、授業前に行った調査を基に、生徒の希望する人物のワークシートを配付した。
- ・「一言」は30字程度の簡単なものにし、質問ではなく、肯定・否定的な立場を問わず意見を述べさせた。また、史実に基づいた理由を考えさせた。

##### 資料2 時代背景を踏まえた回答例

後醍醐天皇に一言！「天皇中心の新政策ではなく、武士の社会の慣習も考慮した政策にすれば良かったと思います」

[理由]「建武の新政以前は武士の社会だったのだから、それを無視した政策は不満をもつ人が出てくるのは予想できる。だから、以前の慣習も考慮した政策なら不満を持つ人も少なかったのではないかと思うから」

- (2) 展開2…発表者の意見を聞いて、自分の意見をもう一度見直す。(手だて3)

同一人物を選択した生徒同士でグループを構成し、各自の意見を発表し合った。

資料3に見られるように、自分の考えとは反対の意見を捉え、加筆できる生徒が多かった。

##### 【留意点】

- ・教員があらかじめ3～4名のグループを構成しておく。
- ・他者の意見で参考になるところや自分にはないものなどを、色を変えて記入させた。

### 資料3 他者の意見で参考になる部分を記入する活動の様子

日野富子に一言！「経済活動を積極的に行い、室町期の経済を発展させたのは素晴らしい」  
[理由]「政治に消極的な将軍を支え、経済活動を積極的に行って天皇家を支援し、将軍と天皇家の橋渡しの役割を果たしたのは評価すべきところだと思う」  
このように記した生徒が「賄賂が横行してしまったことは残念」「賄賂が横行し、築き上げた利益を自分のために使ってしまったところが残念だから」と他者の発表を参考に加筆できていた。

足利義政に一言！「世の中のことをもっと考えるべきだ」  
[理由]「家督争いのせいで関わりのない農民が苦勞している争いの多い世ができてしまったから」  
「東山文化の基礎を築いたなんてすごい」「和風住宅の原型になった書院造を取り入れた銀閣を建てたり、生け花や茶道など今の生活に身近なものが生み出されたから」と加筆できた。

#### (3) 展開3…他者の考えを参考に、意見をまとめ直す。

意見を出し合ったグループで意見を一つにまとめた。

##### 【留意点】

- ・進行係、記述係を決め、話し合いをスムーズに行わせた。
- ・記述は実物投影機で写すことを考慮し、はっきり読みやすい字で書くように指示した。

#### (4) 展開4…各グループの意見を発表し合う。

##### 【留意点】

- ・発表者全員にマイクを使用させ、発表内容が聞き取りやすいように配慮した。
- ・資料4に見られるように発表ごとに教員がコメントを加え、他の歴史上の人物を選んだ生徒の理解を深める工夫をした。

#### 資料4 生徒の発表と教員のコメント例

S：世阿弥に一言。ライバルを認めて、自分の芸に活かす能楽に対する気持ちがすごい。なぜなら、自分の出番が減っても、ライバルを少しも恨まず、妬まずに自分の芸をよりよくしようとする柔軟性と能に対する姿勢が役者として尊敬する部分があると思ったから。また世阿弥が能を愛していたから、ライバルの強さを取り入れて、変化させて、今の世まで残っているのだと思うとすごいなあと感じたからです。

T：授業で扱う内容は少ないけど、観世座の能は大衆向けで演劇色の濃い、物真似中心でした。それに対し他座の能は優雅で美しい歌舞中心の「幽玄能」でした。世阿弥はそれを絶賛し、影響を受けて自分の能に内面を表現する「幽玄能」を取り入れていったのです。良いものを素直に評価し、取り入れる姿勢があったから、人々にも受け入れられ、現代まで残る素晴らしい能が確立できたのですね。

## 4 考察

### (1) 成果

- 歴史的な背景を踏まえたり、より多面的に時代を捉え、「一言」や理由付けを考えられるようになった生徒が増えた。
- グループ内で個人の意見を発表する場面を設定したことで、お互いの意見をよく聴くようになり、自分にはない他者の意見や参考になる部分をメモする様子が多く見られた。

### (2) 課題

- 「一言」を考える場面から始めたが、なかなか自分の意見をまとめられず、次の展開である学び合い活動に移れない生徒がいた。
- グループで意見を一つにまとめる際、学び合い活動に参加できていない生徒が見られた。